

佐原は、細い路地が沢山ある

また、しばらく歩くと古い商家が立ち並んできました。ふと商家と商家の間に目を移すと、巾1mに満たない路地があることに気づきます。庭先のような通りは、奥まで行き止まることは、ありません。町中にはこのような路地が沢山あります。路地の探索を試みるのも、おもしろいと思いますが、道を間違えると他人の庭先に入ってしまうので、注意しないとけません。



建物のあいだに路地のある風景



最近流行のイタリアンレストラン

さらに中橋、共栄橋と過ぎていくと、木ノ下旅館と看板のある建物に出会いますが、ここも最近食堂に改装されたようです。ふと対岸に目をやると、よく見慣れた商家が現れます。TVドラマやニュースに一番出てくる場所です。いかに焼き(佃煮)の正上(しょうじょう)さんです。店舗は、天保3年(1832年)に建築されたと伝えられています。1階は、内側に揚げ戸を建て込み外側の土庇を格子戸と壁で囲う構えとしています。さらに2階正面に繊細な格子窓を設け軒を大きくだしています。これを「せがい」と言うそうです。佐原の建造物群の代表的な建物です。



共栄橋



木ノ下旅館



いかに焼きの正上

さらにその隣に目を移すと、モダンな洋館が目に入ります。この建物は、個人の専用住宅ですが、昔は美容室でした。この美容室は、D保険会社のCMで有名になりました。昭和40年前後の建物だと思います。このさきの最近修繕された建物は、佐原町屋館です。お休みどころです。この辺で一旦休憩してみるのも良いと思います。

白いのれんが気になる

まだ、全体の半分も歩いてないのですが、謎ののれんが目に入りました。NIPPONIAと書いてあります。後で気づくのですが、この先何件かの町屋にこののれんが掛かっていました。さてこれは、何でしょうか。佐原の住人でもはっきり説明出来る人は少ないでしょう。これは、全国の歴史的建造物の利活用をし、宿泊施設や店舗を展開する企業です。佐原に関しては、町屋を改修し、宿泊施設として貸し出しています。現在こののれんが架かっている町屋は5~6件あります。しかしこれを紹介すると長くなるので、興味のある方は、調べてみましょう。



M 邸



佐原町屋館

・・・と、もう予定紙面が無くなりました。この続きは、次回にしたいと思います。河岸っぷち後半です。



旧並木商店

